土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　その他河川　東川　砂防事業に伴う設計業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.5	**調査位置**	広島県竹原市福田町　地内			**北緯**	34° 20′ 42.5135″
発注機関	広島県西部建設事務所東広島支所			**調査期間**	2023年　7月 24日 ～ 2023年　7月 25日	**東経**	132° 57′ 27.3066″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 19.79m	**角度**	180°　上下　90°　0°　0°	**方位**	北 0°　270° 西　90° 東　180° 南	**地盤勾配**	水平0°　鉛直 90°　18°
総削孔長	6.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　DO-C	**エンジン**	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ** 東邦地下工機　BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定日
	19.44	0.35		礫混じり砂		淡褐			新生代第四紀	二次マサ堆積物で、新期土石流堆積物に相当する。礫分はφ5mm程度以下が主体。コンクリート片を含んでいる。	
1	18.59	1.20		玉石		白灰				一本棒として採取される。未風化とは言い難いが、かなり硬質である。土石流堆積物ではあるが、コアのみからは、新期のものか在来のものか判別できない。	
	17.94	1.85		礫混じり砂		淡橙白灰					
2	17.19	2.60		玉石混じり砂礫		淡灰褐	rd3				
						淡灰褐	rd4				
3	15.79	4.00		風化花崗岩		淡褐桃灰			中生代白亜紀	やや粗粒に偏ったマサ土。土石流堆積物に相当する。礫分はφ10mm以下で、細礫分が主体をなす。わずかの細粒分を伴っている。	
4	14.39	5.40		花崗岩		淡桃灰				玉石分はL=6～8cmで採取。その他の礫分はφ10mm以下が主体。砂分は粗中砂。2mの貫入試験、試料に大径の礫は含まないが、直下にφ40mmの亜円礫を含み、これを押した可能性がある。	
5	13.79	6.00		風化花崗岩		淡桃灰				L=5～7cmのごく短柱状コアを主体とする。中程度の岩芯風化を伴い、岩片は少し軟化している。低角度の割れ目が発達し、いずれの面も鋭さを失っている。【CL級岩盤、軟岩Iに相当する】	
6										L=10～15cmの短柱状コアが主体となる。風化程度は弱く、岩片は硬い。噴霧した際の乾きも早い。低角度の割れ目が発達するも、著しい劣化は伴わない。【CM級岩盤、軟岩IIに相当する】	
7										割れ目が少し密となり、コアはL=10cm以下が主体をなす。割れ目沿い風化を伴うが、岩芯風化は前区間と大差ない。局所的な割れ目密集箇の可能性がある。【CL級岩盤、軟岩Iに相当する】	
8											
9											
10											
11											

標準貫入試験

深度 (m)	N値	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1.30	27	7	9	11	27/300		
1.60							
2.05	65	11	28	11/30	50/230	230	
2.28							
3.00		貫入不能			50/0		
3.00							
4.00		貫入不能			50/0		
4.00							
5.00		貫入不能			50/0		
5.00							
6.00		貫入不能			50/0		
6.00							

深度－N値図（0　10　20　30　40　50）

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					7/24
					7/25